(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2017-19528
(P2017-19528A)
(43)公開日　平成29年1月26日(2017.1.26)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
B65D 47/08	(2006.01)	B65D	47/08	H	3E084
B65D 35/44	(2006.01)	B65D	35/44	J	
B65D 47/32	(2006.01)	B65D	35/44	F	
		B65D	47/32	Z	

審査請求 未請求　請求項の数 4　OL　（全 12 頁）

(21)出願番号　特願2015-138589 (P2015-138589)
(22)出願日　平成27年7月10日 (2015.7.10)

(71)出願人　000006769
ライオン株式会社
東京都墨田区本所１丁目３番７号
(74)代理人　100064908
弁理士　志賀　正武
(74)代理人　100108578
弁理士　高橋　詔男
(74)代理人　100094400
弁理士　鈴木　三義
(74)代理人　100152272
弁理士　川越　雄一郎
(74)代理人　100153763
弁理士　加藤　広之

最終頁に続く

(54)【発明の名称】ヒンジ式キャップ

(57)【要約】
【課題】本発明は、カビの発生を防ぐとともに、容器本体に対してキャップの着脱を容易に行えるヒンジ式キャップを提供する。
【解決手段】本発明のヒンジ式キャップは、内容物を収容する容器本体の上端に着脱可能に取り付けられるヒンジ式キャップであって、キャップ本体と蓋部とがヒンジ部を介して結合されてなり、キャップ本体は、中央に注出口が形成された上板部と、上板部から下方に突出する内筒壁と、上板部における内筒壁の外側から下方に突出する外筒壁と、を有し、内筒壁の内周面には、ヒンジ式キャップを容器本体に取り付けたときに容器本体側と係合する係合部が形成され、上板部には、外筒壁の内部に通じる複数の貫通孔が形成されており、複数の貫通孔は、中央に対して前記ヒンジ部が配置される方向と交差する方向における上板部の両側の外筒壁側にそれぞれ配置されていることを特徴とする。
【選択図】図５

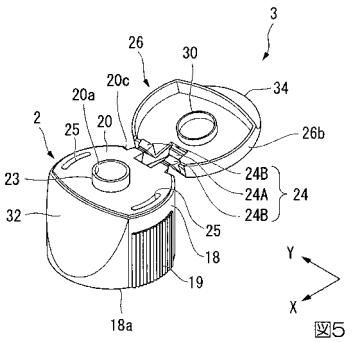

図5

【特許請求の範囲】
【請求項１】
内容物を収容する容器本体の上端に着脱可能に取り付けられるヒンジ式キャップであって、
キャップ本体と蓋部とがヒンジ部を介して結合されてなり、
前記キャップ本体は、中央に注出口が形成された上板部と、前記上板部から下方に突出する内筒壁と、前記上板部における前記内筒壁の外側から下方に突出する外筒壁と、を有し、
前記内筒壁の内周面には、前記ヒンジ式キャップを前記容器本体に取り付けたときに前記容器本体側と係合する係合部が形成され、
前記上板部には、前記外筒壁の内部に通じる複数の貫通孔が形成されており、
前記複数の貫通孔は、中央に対して前記ヒンジ部が配置される方向と交差する方向における前記上板部の両側の前記外筒壁側にそれぞれ配置されていることを特徴とするヒンジ式キャップ。
【請求項２】
前記複数の貫通孔は、軸方向から見た前記外筒壁の形状に沿って長穴形状とされている
請求項１に記載のヒンジ式キャップ。
【請求項３】
前記蓋部は、接地面と、接地面から下方に突出する外壁部と、を有しており、
前記外壁部には、中央に対して前記ヒンジ部が配置される方向と交差する方向における前記ヒンジ部の両側に空気孔がそれぞれ設けられている
請求項１または２に記載のヒンジ式キャップ。
【請求項４】
前記空気孔は、前記接地面とは反対側の前記キャップ本体側に設けられている
請求項３に記載のヒンジ式キャップ。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、ヒンジ式キャップに関する。
【背景技術】
【０００２】
歯磨剤等を収容するチューブ容器や、化粧品等を収容するボトル容器におけるキャップとしては、ヒンジ式キャップが知られている。ヒンジ式キャップの具体例としては、筒状の外筒壁の下端が容器本体の上端部に打ち込み式の嵌合によって固定され、該外筒壁の上端を閉止するように設けられ、かつ中央部に内容物を注出する注出口が形成された上板部に、ヒンジ部を介して前記注出口を閉止する上蓋部が設けられたキャップが挙げられる。
【０００３】
このようなヒンジ式キャップを備える容器は、片手で上蓋部を空けやすいため使用性に優れる。ヒンジ式キャップでは、内容物の残量が少なくなるにつれてキャップが邪魔になって内容物を押し出し難くなるため、容器本体から取り外して使用出来るよう、ネジ嵌合等が採用されるが、それまでキャップは容器本体から長時間取り外さずに使われることになる。結果として、湿度・温度条件や水浸入の影響によりキャップ内やキャップによって覆われていた容器本体の一部分にカビが発生することが考えられる。一方、キャップが打込み式（キャップが外せないタイプ）の場合、カビの発生の可能性はあるが、最後まで外さないため気が付かないことが考えられる。
【０００４】
このようなカビ発生を防止　するために、キャップ内の水はけを考慮した構成が開示されている（例えば、特許文献１～３）。
【先行技術文献】
【特許文献】

【０００５】
【特許文献１】特開平１０－２５８８５３号公報
【特許文献２】特開２００４－２５００７９号公報
【特許文献３】特開平０８－１１９０３号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００６】
しかしながら特許文献１～３の構成では、使用者が使用の都度、好みによって開封方式を選択することが想定されていない。つまり、容器本体からキャップ自体を取り外して使用することが想定されていないため、本体容器からキャップを一度取り外してしまうと再度セットすることが不可能となっている。
【０００７】
本発明は上記事情に鑑みてなされたものであり、カビの発生を防ぐとともに、容器本体に対してキャップの着脱を容易に行えるヒンジ式キャップを提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００８】
本発明の一態様におけるヒンジ式キャップは、内容物を収容する容器本体の上端に着脱可能に取り付けられるヒンジ式キャップであって、キャップ本体と蓋部とがヒンジ部を介して結合されてなり、前記キャップ本体は、中央に注出口が形成された上板部と、前記上板部から下方に突出する内筒壁と、前記上板部における前記内筒壁の外側から下方に突出する外筒壁と、を有し、前記内筒壁の内周面には、前記ヒンジ式キャップを前記容器本体に取り付けたときに前記容器本体側と係合する係合部が形成され、前記上板部には、前記外筒壁の内部に通じる複数の貫通孔が形成されており、前記複数の貫通孔は、中央に対して前記ヒンジ部が配置される方向と交差する方向における前記上板部の両側の前記外筒壁側にそれぞれ配置されていることを特徴とする。
【０００９】
本発明の一態様におけるヒンジ式キャップにおいて、前記複数の貫通孔は、軸方向から見た前記外筒壁の形状に沿って長穴形状とされている構成としてもよい。
【００１０】
本発明の一態様におけるヒンジ式キャップにおいて、前記蓋部は、接地面と、接地面から下方に突出する外壁部と、を有しており、前記外壁部には、中央に対して前記ヒンジ部が配置される方向と交差する方向における前記ヒンジ部の両側に空気孔がそれぞれ設けられている構成としてもよい。
【００１１】
本発明の一態様におけるヒンジ式キャップにおいて、前記空気孔は、前記接地面とは反対側の前記キャップ本体側に設けられている構成としてもよい。
【発明の効果】
【００１２】
本発明のヒンジ式キャップによれば、カビの発生を防ぐとともに、容器本体に対してキャップの着脱を容易に行えるヒンジ式キャップを提供することができる。
【図面の簡単な説明】
【００１３】
【図１】第１実施形態におけるヒンジ式キャップを容器本体に装着した状態の様子を示す図。
【図２】ヒンジ式キャップの一例を示す図。
【図３】図２のキャップにおける蓋部を開いた図。
【図４】キャップの斜視図。
【図５】図４のキャップにおける蓋部を開いた図。
【図６】キャップ本体の構成を示す断面図。
【図７】キャップの背面側の構成を示す図。

【発明を実施するための形態】
【００１４】
以下に、本発明に係るヒンジ式キャップの一例について、図面を参照して詳細に説明する。なお、以下の各図面においては、各構成要素を見やすくするため、構成要素によって寸法の縮尺を異ならせて示すことがある。
【００１５】
［第１実施形態］
図１は、第１実施形態におけるヒンジ式キャップを容器本体に装着した状態の様子を示す図である。図２は、ヒンジ式キャップの一例を示す図であり、容器本体は側面図で示し、キャップは断面図で示す。図３は、図２のキャップにおける蓋部を開いた図であり、容器本体は側面図で示し、キャップは断面図で示す。図４は、キャップの斜視図である。図５は、図４のキャップにおける蓋部を開いた図である。図６は、キャップ本体の構成を示す断面図である。図７は、キャップの背面側の構成を示す図である。
【００１６】
本実施形態のヒンジ式キャップ３は、内容物を収容する容器本体１０１の端部に着脱可能に取り付けられるものである。容器本体１０１にヒンジ式キャップ３が装着されてなる容器は、通常の使用状態において、図１に示すようにヒンジ式キャップ３を下側に向けて倒立載置される。
【００１７】
（容器本体）
容器本体１０１としては、特に限定されず、歯磨剤、練りワサビ、練りガラシ等の内容物や化粧クリーム等を収容できるものであればよく、例えば、チューブ、ボトル、パウチ、金属缶、瓶等が挙げられる。
【００１８】
容器本体１０１は、図２及び図３に示すように、内容物を収容する胴部１０２と、胴部１０２の上端に形成され、上方に向かって漸次窄まるように傾斜した肩部１０３と、肩部１０３の上端に突設され、上端が開口した筒状の首部１０４と、を有する。胴部１０２の断面形状は、特に限定されず、例えば、円形、多角形、楕円形、星形等、任意に選択できる。ここで「断面」とは、胴部の長手方向に対して垂直方向に切断した時の断面を意味する。
【００１９】
首部１０４の外周面には、首部１０４の全周にわたって径方向の外側に突き出る環状の凸条からなる第一係合部（係合部）１０６が設けられている。第一係合部１０６の縦断面形状は、この例では三角形状であるが、三角形状には限定されず、半円形、矩形等であってもよい。
【００２０】
［ヒンジ式キャップ］
本実施形態のヒンジ式キャップ（以下、単にキャップ３と称する。）は、図２及び図３に示すように、キャップ本体２と蓋部２６とがヒンジ部２４を介して連結されてなる。
【００２１】
キャップ本体２は、上板部２０と、上板部２０から下方に突出する内筒壁２２と、上板部２０の周縁、すなわち上板部２０における内筒壁２２よりも外側から下方に突出する外筒壁１８と、を有している。
【００２２】
上板部２０は、平面視で円の一部が直線状に掛けた形状（図４）であり、中央部には注出口２０ａ（図５）が形成されている。蓋部２６は、注出口２０ａを開閉自在に閉じるようになっている。
内筒壁２２は、外筒壁１８よりも内側において、上板部２０から注出口２０ａを囲うように垂下されている。
【００２３】

外筒壁１８は、内筒壁２２の外側において、上板部２０の外縁から垂下されている。
外筒壁１８は、平面視形状が円形におけるヒンジ部２４側が曲線状に欠けた欠円状である。外筒壁１８における前面部分及び側面部分は、下方に向かって暫時拡径している。
【００２４】
キャップ３の外筒壁１８における背面側の部分は、上板部２０における背面部分から、上板部２０に対して垂直に垂下されている。このように、外筒壁１８における背面壁１８ｂは、上下方向において外径が変化しないようになっている。これにより、特別な金型を用いることなく、より低コストにキャップ３を製造することができる。
【００２５】
外筒壁１８の下端の底面視形状は、円形のヒンジ部２４側が曲線状に欠けた欠円状になっている。外筒壁１８における、上板部２０の切欠辺２０ｃ（図５）から垂直に垂下された背面壁１８ｂの下端は、容器本体１０１の肩部１０３の形状に沿って蓋部２６側に向かって凹んだ円弧状になっている。
【００２６】
図５に示すように、外筒壁１８における、ヒンジ部２４の開閉方向（Ｘ方向）に交差する方向（Ｙ方向）において対向する部分には、外筒壁１８を径方向の内側に押圧する位置を示す押圧位置表示部１９，１９が設けられている。
【００２７】
押圧位置表示部１９，１９は、外筒壁１８におけるヒンジ部２４の開閉方向（Ｘ方向）に交差する方向（Ｙ方向）の両側にそれぞれ設けられている。これら押圧位置表示部１９，１９を外筒壁１８の内側へ向かって押圧したときには、外筒壁１８の下端１８ａが容器本体１０１の肩部１０３の表面をせり上がり、キャップ３（外筒壁１８）が押し広げられて、キャップ３側の第二係合部（係合部）２８と容器本体１０１側の第一係合部１０６との係合状態が解除される。
【００２８】
外筒壁１８の平面視形状が前記したような欠円状である場合、本実施形態のように外筒壁１８におけるＹ方向において対向する部分に押圧位置表示部１９，１９を設けることが好ましい。
【００２９】
外筒壁１８の平面視形状が、ヒンジ部２４側が欠けた欠円状である場合、外筒壁１８におけるＹ方向において対向する部分を押圧する方が、外筒壁１８におけるＸ方向において対向する部分を押圧する場合に比べて外筒壁１８が、容器本体１０１の肩部１０３をせり上がりやすい。そのため、押圧位置表示部１９，１９を設けて、この押圧位置表示部１９，１９を押圧するように促すことで、容器本体１０１からキャップ３を容易に取り外すことが可能となる。
【００３０】
この例の押圧位置表示部１９，１９は、上下方向に延び、かつ外筒壁１８の外側面から外方に突出する複数の凸条からなる。押圧位置表示部１９，１９の態様は、複数の凸条からなる態様には限定されず、印刷等により形成してもよい。押圧位置表示部１９，１９の正面視形状は、この例では略矩形状になっている。なお、押圧位置表示部１９，１９の正面視形状は、半円形状等であってもよい。
【００３１】
外筒壁１８においては、キャップ３を容器本体１０１に取り付けた状態で、押圧位置表示部１９，１９が径方向の内側に押圧されたときに、下端１８ａが肩部１０３に接するようになっている。そして、外筒壁１８における押圧位置表示部１９，１９を径方向の内側に押圧したときには、外筒壁１８の下端１８ａが肩部１０３に接し、さらに外筒壁１８の下端１８ａが肩部１０３をせり上がることで、キャップ３が押し上げられて容器本体１０１から外れるようになっている。
【００３２】
外筒壁１８の押圧位置表示部１９，１９を径方向の内側に押圧していない状態において

は、外筒壁１８の下端１８ａは、キャップ３を容器本体１０１に取り付けた状態で肩部１０３を上側に凸に湾曲させても肩部１０３と接触しないように、肩部１０３から離間していることが好ましい。これにより、内容物の残量が少ないときに容器本体１０１の胴部１０２における上端側部分を絞ることで、肩部１０３が上側に凸状に湾曲しても、キャップ３が予期せず外れることを抑制できる。

【００３３】

外筒壁１８の押圧位置表示部１９，１９を径方向の内側に押圧していない状態における外筒壁１８の下端１８ａと肩部１０３との距離は、外筒壁１８を押圧したときに外筒壁１８が肩部１０３をせり上がる範囲内で適宜設定でき、第一係合部１０６と後述の第二係合部２８の嵌合力との兼ね合いで決まる。この距離は、例えば、０～２．０ｍｍとすることができる。

【００３４】

上板部２０の平面視形状は、円におけるヒンジ部２４側が直線状に欠けた形状である。このように、キャップ３においては、上板部２０の平面視形状をヒンジ部２４側が欠けた形状にすることで、平面視において、ヒンジ部２４が、容器本体１０１の胴部１０２における上端の外縁よりも内側に収まるようにしている。これにより、使用時、保管時、輸送時等にヒンジ部２４が引っ掛かって取り扱いにくくなることを抑制できる。

【００３５】

また、上板部２０にこのようなヒンジ部２４側が欠けた形状を採用することで、内容物の充填設備のサイズを変更する必要がなく、内容物の充填が容易になる。また、平面視においてヒンジ部２４を胴部１０２における上端の外縁よりも内側に収めつつ、外筒壁１８における前面部分及び側面部分の半径を胴部１０２の上端部の半径と同等となるまで大きくすることができる。これにより、外筒壁１８における対向する部分を径方向の内側に押圧したときに、外筒壁１８が肩部１０３をせり上がってキャップ３が充分に押し上げられやすくなることで、キャップ３が容器本体１０１から外れやすくなる。

【００３６】

また、平面視において、上板部２０におけるヒンジ部２４と反対側の部分は、後述する凹部３２により、径方向の外側に向かって凸状の曲線状に円の一部が欠けた形状になっている。このように、この例の上板部２０全体の平面視形状は、Ｙ方向に長い略楕円状になっている。

【００３７】

上板部２０における内筒壁２２の内側の中央部分には、平面視円形状の注出口２０ａが形成されている。注出口２０ａの直径は、図２及び図３に示すように、容器本体１０１の首部１０４における上端開口部１０４ｂの直径よりも小さくなっている。

【００３８】

図５及び図６に示すように、上板部２０における、中央に対してヒンジ部２４が配置される方向（Ｘ方向）と交差する方向（Ｙ方向）には、一対の水抜き孔（貫通孔）２５，２５が形成されている。これら一対の水抜き孔２５，２５は、上板部２０における、平面視でヒンジ部２４の開閉方向（Ｘ方向）に交差する方向（Ｙ方向）で、内筒壁２２の両側の外筒壁１８寄りの位置にそれぞれ形成され、外筒壁１８の内部に通じている。

【００３９】

水抜き孔２５，２５が形成されていることで、肩部１０３上の外筒壁１８の内側に水が入り込んだとしても乾燥しやすいため、肩部１０３にカビが生えにくい。また、水抜き孔２５，２５が上板部２０における上記の位置、つまり注出口２０ａから離れた位置に形成されていることで、使用時に、後述の注出筒部２３から出た内容物によって水抜き孔２５，２５が埋まることが抑制される。

【００４０】

水抜き孔２５，２５の平面視形状は、この例では長穴形状である。水抜き孔２５，２５の平面視形状は、長穴形状には限定されないが、外筒壁１８の外形形状に沿って、長手方向が湾曲していることが好ましい。

【００４１】
また、上板部２０の曲げ剛性を、外筒壁１８の曲げ剛性よりも高くしておくことによっても上記効果が得られる。上板部２０の曲げ剛性を外筒壁１８の曲げ剛性よりも高くする態様は、特に限定されず、上板部２０の厚みを外筒壁１８の厚みよりも厚くする態様、外筒壁１８を形成する材料よりも曲げ剛性が高くなる材料で上板部２０を形成する態様、上板部２０にリブを設けて補強する態様等が挙げられる。なかでも、製造が容易な点から、上板部２０の厚みを外筒壁１８の厚みよりも厚くする態様が好ましい。
【００４２】
内筒壁２２は、上板部２０における外筒壁１８よりも内側から下方に延びるように設けられている。内筒壁２２は円筒状である。内筒壁２２の内径は、容器本体１０１の首部１０４の外径とほぼ同等になっており、内筒壁２２の内部に容器本体１０１の首部１０４が嵌まり込むようになっている。
【００４３】
内筒壁２２には、図６に示すように、周方向において、内筒壁２２の下端から上方に向かって延びる１つ以上の切欠溝２２ｂが形成されていることが好ましい。切欠溝２２ｂは細長いスリット状の隙間である。
また、内筒壁２２の内周面２２ａにおける下端寄りの部分には、キャップ３を容器本体１０１に取り付けたときに容器本体１０１側の第一係合部１０６と係合する第二係合部２８が設けられている。第二係合部２８は、内周面２２ａの周方向に全周にわたって延び、径方向の内側に突き出る環状の凸条からなる。
【００４４】
内筒壁２２に設けられた切欠溝２２ｂによって、内筒壁２２が撓みやすくなるため、内筒壁２２の内部に容器本体１０１の首部１０４を嵌め込んで、容器本体１０１が側の第一係合部１０６と、後述のキャップ３側の第二係合部２８と、を係合させることが容易になる。内筒壁２２に形成される切欠溝２２ｂの数は、特に限定されず、１つであってもよく、複数であってもよい。本実施形態では、内筒壁２２の周方向に所定の間隔をおいて複数の切欠溝２２ｂが設けられている。
【００４５】
内筒壁２２は可撓性を有しており、首部１０４をキャップ３の内筒壁２２の内側に嵌め込んでキャップ３を容器本体１０１に取り付けたときに、第一係合部１０６に第二係合部２８が係合するようになっている。具体的には、第二係合部２８が第一係合部１０６の下側に引っ掛かって掛止されることで係合構造が形成される。これにより、容器本体１０１に取り付けたキャップ３が上方に移動することが規制され、キャップ３が予期せず外れることが抑制されている。
【００４６】
キャップ３を容器本体１０１に取り付けた状態で、外筒壁１８の対向する押圧位置表示部１９，１９を径方向の内側に押圧したときには、外筒壁１８が肩部１０３をせり上がりつつ、第一係合部１０６に対する第二係合部２８の係合状態が解除されることで、キャップ３が押し上げられて容器本体１０１から外れる。
【００４７】
第二係合部２８の縦断面形状は、この例では三角形状であるが、三角形状には限定されず、半円形、矩形等であってもよい。
【００４８】
上板部２０の下面における内筒壁２２よりも内側には、注出口２０ａの周縁から垂下された筒状のスリーブ２１が設けられている。キャップ３を容器本体１０１の首部１０４に取り付けた状態においては、スリーブ２１は、首部１０４の上端開口部１０４ｂの内側に液密に挿入されるインナーリングとして作用する。これにより、キャップ３を容器本体１０１に取り付けた状態で、上板部２０の下方において首部１０４から肩部１０３に内容物が漏れることが抑制される。
【００４９】

上板部２０の上面における内筒壁２２よりも内側には、注出口２０ａの周縁から上方に突設された筒状の注出筒部２３が設けられている。容器本体１０１内に収容された内容物は、首部１０４からスリーブ２１、注出口２０ａを介して注出筒部２３から注出される。

【００５０】

ヒンジ部２４は、３点式ヒンジであって、キャップの背面側中央に設けられた断面Ｌ字状の中央ヒンジ２４Ａと、中央ヒンジ２４Ａの両側に設けられた一対の薄肉ヒンジ２４Ｂ，２４Ｂと、を有する。中央ヒンジ２４Ａは、下部が外筒壁１８の背面壁１８ｂに接続され、かつ上部が蓋部２６に接続されて形成されている。薄肉ヒンジ２４Ｂ，２４Ｂは、背面壁１８ｂから後方に突出させた状態で形成されている。

【００５１】

なお、ヒンジ部２４のヒンジ機構は、３点式に限定されず、例えば、１点式、２点式、バタフライ式、スナップヒンジ式、バネ嵌合式等を採用できる。

【００５２】

蓋部２６の中央部には、蓋部２６の下面から垂下された環状の突起部３０が設けられている。キャップ３を容器本体１０１に取り付けた状態においては、上板部２０から上方に突出する注出筒部２３の先端部が環状の突起部３０内に嵌まり込むようになっている。すなわち、蓋部２６は、いわゆるアウターリング方式によって注出口２０ａと通じる注出筒部２３を開閉自在に塞ぐようになっている。これにより、蓋部２６を閉めた状態において内容物が漏れることが抑制される。

【００５３】

なお、本発明の容器においては、インナーリング方式を採用してもよく、インナーボス方式を採用してもよい。

【００５４】

蓋部２６及び外筒壁１８におけるヒンジ部２４と反対側の前面部分には、径方向の内側に凹んだ凹部３２が形成されており、蓋部２６の前面側の先端部が指掛部３４とされている。これにより、指掛部３４に指を掛けて蓋部２６を容易に開くことができる。蓋部２６の前面は容器の使用時において下側に向けられる面であって、洗面台等の載置面に接する接地面２６ａとなる部分である。

【００５５】

凹部３２は、外筒壁１８における下端１８ａから上方に向かうにしたがって径方向に内側に凹み、かつ蓋部２６の上端から下方に向かうにしたがって径方向に内側に凹むように形成されている。凹部３２の形状及び大きさは、特に限定されず、キャップ３の大きさ等に応じて適宜設定できる。

【００５６】

図７に示すように、この例では、蓋部２６の背面部分には、中央に対してヒンジ部２４が配置される方向（Ｘ方向）と交差する方向（Ｙ方向）におけるヒンジ部２４の両側に、空気孔２７，２７がそれぞれ形成されている。これにより、肩部１０３と外筒壁１８の下端１８ａの隙間から、肩部１０３上の外筒壁１８の内側、上板部２０に形成された水抜き孔２５，２５及び蓋部２６に形成された空気孔２７，２７まで通じる空気の通り道ができる。そのため、肩部１０３上の外筒壁１８の内側に水が入り込んだときの乾燥速度がより速くなるため、肩部１０３にカビがより生えにくくなる。

【００５７】

また、空気孔２７，２７は、蓋部２６の外壁部２６ｂにおける接地面２６ａとは反対側のキャップ本体２側に設けられている。これにより、容器を倒立載置した際に、蓋部２６の接地面２６ａよりも高い位置に空気孔２７，２７が位置することになるので、容器を倒立載置させた載置面上に溜まった水が、空気孔２７，２７を介して蓋部２６の内部に浸入するのを防ぐことができる。

【００５８】

空気孔２７，２７の正面視形状は、この例では矩形である。なお、空気孔２７，２７の平面視形状は、矩形には限定されず、円形状、三角形状等であってもよい。

【００５９】
キャップ３の材料は、キャップに通常用いられる材料であれば特に限定されず、例えば、ＰＰ、ＰＥ、ＰＡ、ＰＥＴ、ＰＳ、金属、又はこれらの複合材料等が挙げられる。
【００６０】
本実施形態のヒンジ式キャップ３によれば、容器本体１０１とキャップ３との隙間から水が浸入した場合であっても、キャップ本体２の上板部２０に設けた水抜き孔２５，２５を介してキャップ本体２から蓋部２６側へ排水させることができる。また、キャップ３の背面側に設けられた空気孔２７，２７によって、蓋部２６内に排出された水の乾燥を早めることができる。このため、キャップ３が容器本体１０１から長期間取り外さずに使用された場合であっても、湿度、温度条件や水浸入の影響によってカビが発生することを防止することができる。
【００６１】
また、長穴形状の水抜き孔２５，２５を、キャップ本体２の上板部２０における外筒壁１８側にそれぞれ設けたことにより、使用終盤時に容器本体１０１内の内容物をキャップ３側に向かって押し出そうとした場合に、肩部１０３の変形によってキャップ３全体が外側へ変形しやすくなり、肩部１０３の変形によるキャップ３の突き上げを吸収してキャップ３が予期せずに外れてしまうことを抑制できる。
【００６２】
さらに、キャップ本体２の水抜き孔２５，２５が長穴形状としたことにより、外筒壁１８における押圧位置表示部１９，１９を径方向の内側に押圧した場合に、押圧位置表示部１９，１９を押圧したときの外筒壁１８の変形が上板部２０に伝わりにくくなった。これにより、キャップ３を容器本体１０１から取り外す際に、蓋部２６が予期せず外れてしまうことをなくすことができる。結果として、上板部２０の変形を防止するために板厚を不必要に厚くする必要がなくなった。
【００６３】
なお、上記実施形態の構成に限られず、適宜変更が可能である。
【００６４】
以上、添付図面を参照しながら本発明に係る好適な実施形態について説明したが、本発明は係る例に限定されないことは言うまでもない。当業者であれば、特許請求の範囲に記載された技術的思想の範疇内において、各種の変更例または修正例に想到し得ることは明らかであり、それらについても当然に本発明の技術的範囲に属するものと了解される。
【符号の説明】
【００６５】
１…容器、２…キャップ本体、３…キャップ、３…ヒンジ式キャップ、１８…外筒壁、２０…上板部、２０ａ…注出口、２２…内筒壁、２２ａ…内周面、２４…ヒンジ部、２５…水抜き孔（貫通孔）、２６…蓋部、２６ａ…接地面、２６ｂ…外壁部、２７…空気孔、２８…第二係合部（係合部）、１０１…容器本体、１０６…第一係合部（係合部）

【図１】

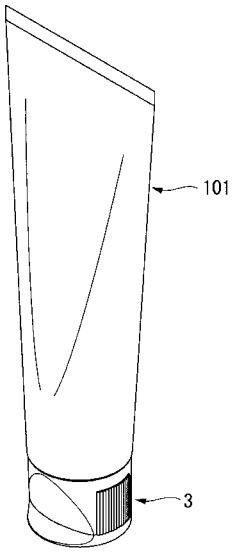

図1

【図２】

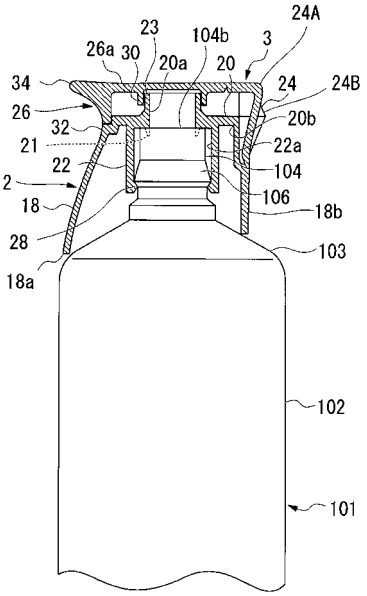

図2

【図３】

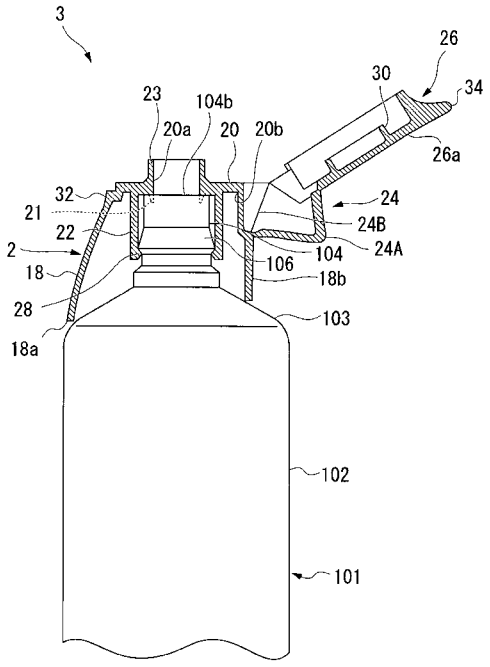

図3

【図４】

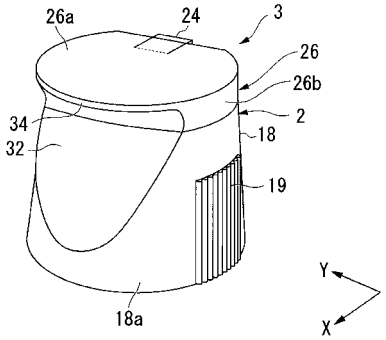

図4

【図５】

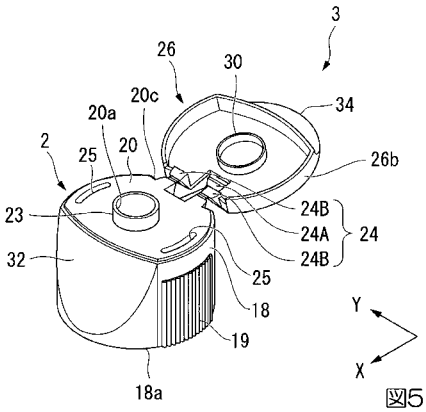

図5

【図６】

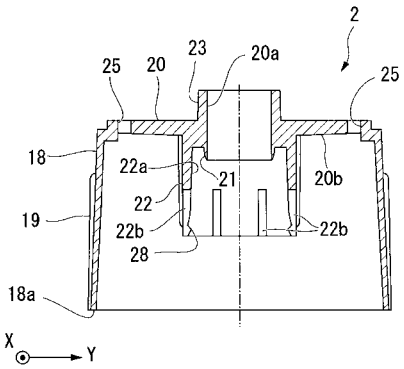

図6

【図７】

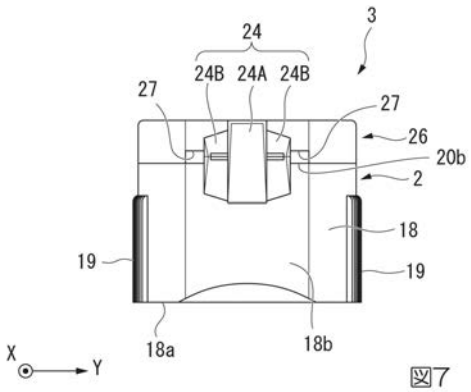

図7

フロントページの続き

(72)発明者　加藤　啓育
東京都墨田区本所一丁目３番７号　ライオン株式会社内
(72)発明者　鈴木　眞吾
東京都墨田区本所一丁目３番７号　ライオン株式会社内

Ｆターム(参考) 3E084 AA03 AA04 AA12 AB06 AB09 BA03 CA01 CB02 DA01 DB13
FA02 FC07 GA06 GA08 GB06 JA20 KA01 LB02 LB07 LC01
LD01